

第2次船橋市文化振興基本方針 令和7年度個別事業評価シート

事業名	令和6年度遺跡・文化財学習の推進				
担当課	文化課	担当者	白崎・坂本・林	連絡先	2887

第2次基本方針における事業の位置付け

最も該当する基本目標	Ⅲ育みつながる
最も該当する施策	Ⅲ育みつながる 施策① 子供が文化・芸術に親しみ、心豊かに成長するための取組の充実
関連目標・施策	重点プログラム（2）「『ふるさと船橋』を知る」プログラム 「ふるさと船橋」学習の推進

事業の概要

開催年度	平成27年度から継続		
開催経緯	<p>・平成26年の海老ヶ作貝塚損壊事件をきっかけに、地域の遺跡や文化財の魅力や価値を市民に伝えることで、これらが地域にとって大切な宝であるとの意識を醸成し、保護につなげる取り組みを積極的に行ってきました。特に次世代の担い手となる子供たちが、学校で地域の遺跡や文化財について学び、「ふるさと船橋」に愛着をもてるよう、さまざまな事業を行っている。</p> <p>①刊行物（遺跡マップ、取掛西貝塚リーフレット・児童用パンフレット・中級用パンフレット）の作成と小中学校への重点配布 ②教材として使用できる動画の作成・配布 ③出前授業 ④授業での遺跡見学</p>		
事業目的	地域の遺跡や文化財を市民に知っていただくことを目的として、個人の興味関心の有無に関わらず、対象となる児童生徒全員と保護者に普及啓発できる学校教育に重点を置いて実施している。		
定性目標	地域の財産である遺跡や文化財の魅力や価値を、児童生徒をはじめ市民に知っていただくこと。		
定量目標	なし		
対象	市民（特に小中学校の児童生徒）		
事業内容	<p>①遺跡マップやパンフレット等刊行物の小中学校への重点配布。小学3年生に取掛西貝塚児童向けパンフレット、小学6年生に取掛西貝塚リーフレット、中学1年生に取掛西貝塚パンフレットと遺跡マップを全員に配布している。継続して実施することで、多くの市民に知ってもらい、地域の宝として保護につなげる。 *「史跡取掛西貝塚」令和3年に船橋市初の国史跡に指定。日本ではじめて貝塚がつくられた約1万年前の人々の暮らしや文化、環境を知る上で欠かせない重要な史跡。</p> <p>②教材として使用できる動画の作成・配布。令和5年度に小学3年生の地域学習で使うことを想定した動画を作成・配布した。</p> <p>③出前授業。下野牧二和野馬土手については、隣接する二和小学校3年生に毎年、出前授業を行っている（6年度は3クラス78名）。その他、6年度の実績はないが、学校の依頼により、出前授業を行っている。 *「下野牧二和野馬土手」平成29年船橋市文化財（史跡）に指定。市域中央部を縦断する、江戸幕府が設置した馬の放牧場（下野牧）にかかる史跡。江戸時代の景観を良好に残すとともに、二和三咲の地名の起源でもある、地域の歴史を知る上で欠かせない重要な史跡。</p> <p>④授業での遺跡見学。6年度は、飯山満南小学校（5年生3クラス90名）と芝山東小学校（5年生2クラス40名）の2校で実施した。市内で発掘調査を実施する際には、近隣の小中学校にチラシを配布し、発掘調査の実施について周知している。学校から依頼があれば、授業での遺跡見学を実施している。また、授業で時間がとれない場合でも、一般向けの遺跡見学会を実施する時には、近隣の小中学校にチラシを配布し、地域の歴史を知る機会を設けている。</p>		
実施主体	市	市との関わり	主催
情報発信	<input type="checkbox"/> 広報ふなばし <input checked="" type="checkbox"/> Facebook	<input checked="" type="checkbox"/> HP <input type="checkbox"/> X	<input checked="" type="checkbox"/> チラシ <input type="checkbox"/> その他（学校・公共施設等にて配布）

第2次船橋市文化振興基本方針 令和7年度個別事業評価シート

経年

年度	令和3年度 (決算)	令和4年度 (決算)	令和5年度 (決算)	令和6年度 (決算)	令和7年度 (予算)
事業費=決算額	0	1,677,500	1,147,300	891,000	1,128,050
市予算	0	1,677,500	※	※	※
補助金・協賛金等	-	-	※	※	※
その他()	-	-	-	-	-
人工(常勤職員)	4	8	9	9	9
人工(会計年度任用職員)	0	0	0	0	0
その他人工(委託業者)	0	0	2	0	0
定量目標値	-	-	-	-	-
定量目標値の設定根拠	-	-	-	-	-
定量実績値	0校	1校	2校	3校	-
【%の場合は計算根拠も記入】 Ex.来場者○人 アンケート回収数○ アンケート回収率○%	-	-	-	-	-
事業内容 ※現年度は計画	・刊行物(遺跡マップ・取掛西貝塚パンフレット・リーフレット・児童パンフレット)のデジタル版を各学校に配布	・刊行物(遺跡マップ、取掛西貝塚パンフレット、取掛西貝塚リーフレット、取掛西貝塚児童向けパンフレット)の作成・配布 ・下野牧二和野馬土手の出前授業 ・教材として使用できる動画の作成	・刊行物(遺跡マップ、取掛西貝塚パンフレット、取掛西貝塚リーフレット、取掛西貝塚児童向けパンフレット)の作成・配布 ・授業での遺跡見学 ・下野牧二和野馬土手の出前授業 ・教材として使用できる動画の配布・周知	・刊行物(遺跡マップ、取掛西貝塚パンフレット、取掛西貝塚リーフレット、取掛西貝塚児童向けパンフレット)の作成・配布 ・授業での遺跡見学 ・下野牧二和野馬土手の出前授業 ・教材として使用できる動画の案内・周知	・刊行物(遺跡マップ、取掛西貝塚パンフレット、取掛西貝塚リーフレット、取掛西貝塚児童向けパンフレット)の作成・配布 ・授業での遺跡見学 ・下野牧二和野馬土手の出前授業 ・教材として使用できる動画の案内・周知
定性目標の実績について 経緯・変遷	・毎年度事業を計画的に実施しており、児童が熱心に遺跡を見る様子などから、地域の遺跡や文化財の価値や魅力を、児童をはじめ市民に知っていただけていると感じている。また、遺跡や文化財をテーマにした夏休みの社会科作品が入賞するなど、取組の成果があがっている。				

自由記述 (これまでの欄で書き切れない 内容・特に推したい年度の事業 PR・補足説明等、自由に記入 する。)	※「財源」について、令和5年度から国庫補助金の活用を再開した。補助事業は、学校に重点配布している各種刊行物の作成・配布(需用費_印刷製本費)のほか、市民への周知を目的とする公園等への遺跡説明板の作成・設置(委託料_一般委託料)を行っている。事業費総額(千円未満切り捨て)に対して、2分の1が補助される。 以下の数字は、これらの補助事業全体の金額であり、遺跡説明板の費用も含む。 ○令和5年度:「事業費」=2,230,800円 (市負担額:1,188,800円、補助金:1,042,000円) ○令和6年度:「事業費」=2,288,000円 (市負担額:1,144,000円、補助金:1,144,000円) ○令和7年度:「事業費」=2,301,000円 (市負担額:1,152,000円、補助金:1,149,000円)
--	---

第2次船橋市文化振興基本方針 令和7年度個別事業評価シート

事業評価

評価対象年度	令和6年度
評価実施年度	令和7年度

事業所管課による一次評価

1：目標を大幅に下回ってしまった。 2：目標をやや下回ってしまった。 3：おおむね目標通りに達成できた。

4：目標をやや上回る実績が得られた。 5：目標を大幅に上回る実績が得られた。

定性評価	評価項目	定性目標の達成度				
		1 □	2 □	3 ■	4 □	5 □
	評価理由	地域の遺跡や文化財の魅力や価値を、児童生徒をはじめ市民に知っていただく目標の達成に向けて、毎年度事業を計画的に実施しているため。				

定量評価	評価項目	定量目標の達成度				
		1 □	2 □	3 □	4 □	5 □
	評価理由	'定量目標値'は、設定していない。遺跡見学会は遺跡周辺学校の児童生徒を、下野牧二和野馬土手の出前授業は近隣の二和小学校を対象としており、目標値としてコントロールできない。				

文化振興推進協議会に助言・提案を求めたいこと (何が課題か、どのような助言を求めたいか、明確に記入すること)	課題
	<ul style="list-style-type: none"> 「史跡取扱西貝塚保存活用計画」が令和6年度に施行され、学校教育での活用推進を掲げている。 現在、各種刊行物の作成・配布を行っているが、必ずしも授業で活用されておらず、教材としてどのように組み込めば授業の中で効果的に学習ができるのかが、課題となっている。 令和4年度のアンケート結果によると： <ul style="list-style-type: none"> ○小学校では約39%が遺跡や文化財を授業に活用している。 ○主に6年生の歴史学習で使用されているが、他学年や他教科での可能性も示唆されている。 ○約46%の小学校教員が教材として活用したいと回答している。 ○課題として、教材の使いやすさや教員の負担軽減が挙げられている。 ○希望する教材として、授業で使用しやすい説明動画（64.77%）と写真資料（60.23%）が上位を占めている。
	求めたい助言

- ・遺跡・文化財学習について、今後、学校の先生方と意見交換する機会を設ける予定である。学校での学習に効果的に組み込んだかたちで、「ふるさと船橋」学習を推進するために、効果的な方法や他自治体の先進事例などをご教示いただきたい。

第2次船橋市文化振興基本方針 令和7年度個別事業評価シート

文化振興推進協議会委員による二次評価（文化振興推進協議会にて協議）

事業に対する評価・今後の事業展開への助言・提案	<ul style="list-style-type: none">学校の年間指導計画や学習内容に沿ってどのように扱うか先生方とよく相談し、授業で使える動画を早急に作成した方がよい。先生方の負担軽減をはかるため、学校で説明できるレベルの方をティーチングアシストのような形で採用する方法もある。学習指導要領を踏まえて、具体的にどの単元でどのように使うかというところまで提示できると、学校で使いやすくなるのではないか。先進事例としては、長野県茅野市「縄文プロジェクト」があげられる。
-------------------------	--

フォローアップ

今後の対応 (文化振興推進協議会委員による二次評価を受けての対応を記入してください。)	ご教示いただいた他市町村の事例等を参照したいと思います。また、今年度（令和7年度）は2月に小中学校の先生方からご意見をいただく機会を設けていますので、動画教材作成の参考といたします。来年度（令和8年度）は動画作成中に先生方からご意見をいただく予定ですので、参考として授業で使いやすい教材となるよう検討を進めて参ります。
--	---

対応の結果 (無理に結果を作り出す必要はありません。結果が出た場合のみ記入してください。)	
--	--